

小学生プログラミング大会

松本の中沢君

県で最優秀賞

全国大会へ

コンピュータープログラミングで開発したソフトウェア作品の出来栄を競う「全国選抜小学生プログラミング大会」(主催毎日新聞社、会原大会)が6日、松本市の信毎メディアガーデンで開かれた。人工知能(AI)が暴走する未来をテーマにした同市清水小6年の中沢修葉君(12)が最優秀賞を受賞した。

作品は、暴走したAIロボットによって監視される建物から戻って来ない仲間を救出し、AIを止めるために主人公が歩みを進める内容。暗い屋内を進む緊張感を表現し、

最優秀賞受賞の喜びを語る中沢君



テーマ性や発想力、完成度が高く評価された。

中沢君は、昨年6月から毎日朝5時半ごろ起床して登校前に制作を進め、約2カ月で完成させたという。3月に都内で開かれる全国大会で作品の魅力などをプレゼンテーションする。中沢君は「(課題も含めて)AIと向き合う大

切さを伝え、プログラミング「い」と話していた。
の話ができる友達をつくりた